

北陸 白山北方稜線

田村・他

【日時】 2007年5月3日(木)～5日(土)

【メンバー】L田村、佐貫、棚橋、山川

5/3 (木) 晴

池袋の繁華街から夜行バスに乗り、目が覚めると、もう富山平野だった。砺波の駅前でタクシーに乗り換え、山へと向かっていく。手前の低い山々には全く雪の気配などないが、その奥はるかに白い山が見え、心躍る。

林道入り口でタクシーが停まるとき、ちょうどゲートを開けて車が入っていくところだった。駆け寄って乗せてもらえるよう交渉しようかと迷う一瞬の間に、おじさんはこちらを見ながらゲートを閉めて行ってしまった。まあ天気もいいし予定通り歩こうということになるが、予想以上の暑さに早くも汗だく。しかしたまに横から枝沢が入るので水分補給が出来て有難い。期待していなかったので調味料や天ぷらセットがないのに、林道の両脇にはタラの芽やコゴミ、ウド、コシアブラなどが次々と姿を現した。勿論、手持ちの材料でどう料理できるかを考えながら適量を収穫する。そうこうするうちに林道をショートカットしブナオ峠に到着だ。直前で山梨からのパーティーと会い、少し会話を交わす。このパーティーとは大門山の往復時まで前後しながら歩いた。

ブナオ峠からは一部を除き雪の上を歩けたが、天気が良すぎて照り返しが暑いことこの上なし。持参のみかんカルピスで休憩のたびにカキ氷を作り水分補給を繰り返す。遙か遠くにぼんやり霞む山々が立派だなあと思っていたらそれが大笠山と笈ヶ岳だった。と、遠い……。今日の目標の奈良岳でも十分遠いのに、明日あんなところまで行けるのかと不安になる。ギャップをいくつか越えながら見越山に到着。双耳峰なのでもう一つの「耳」まで行ってくるといって田村さんを残し、先に奈良岳に向けて足を進めると、そこからの下りは稜線から雪が落ちて夏道が出ている部分が多かった。風も出てきて身体が冷えかけてきた頃に、のっぺりとした奈良岳のピークに着く。地形図を見て狙っていた山頂南側の二重稜線の部分が快適な泊まり場を提供してくれた。夜は、収穫した山菜を何とか手持ちの調味料や材料と合わせて調理し、食卓(?)が賑わった。さて、明日の行程はどのようなのだろうか。(佐貫)



5/4 (金) 快晴

3時に起床する。普段の寝起きはひどく悪いが山では低血圧もおさまるのか、目覚ましの一鳴りでいそいそと寝袋からでる。外はすでにぼんやり明るい気配がする。佐貫さんのリゾットをたっぷりいただいて、4:45には出発する。

朝一番の空気はどうしてこんなに気持ちが良いのだろう。晩の間に、すっかり空気を入れ替えたように、澄んで塵の納まった山の背には透明な空気が沈んでいる。昨日拾った手になじんだ杖を、一足ごとに先に運びながら、この時間帯が一番すばらしいなと思う。

1668m付近でちょうどこれから出立しようとしている単独行の男性に出会う。私たちと同じ行程を来たという。今日は大笠から桂湖に下山予定とのこと。しかし田村さんの下調べでは、登り口の橋が落ちていて大畠谷を渡るのは難しいようだ。この季節にザックを背負って頭までつかる水泳はちょっと遠慮したいが他に道もない。どうするのか気になりながら、先に道を譲ってもらう。

大笠山のどっしりとした稜線が朝日に照らされて徐々に量感を増してきた。気持ちよい澄んだ空気はすぐに熱を帯びて暑い一日を予告しているようだ。早くも汗がそろりそろりと落ちてくる。今日一日の行程を思いながら、不安と期待で胸がつまりそうだ。あの白山の遥かに遠いこと。そして目前に近づきつつある笈の不気味に藪を思わせる黒々とした山肌。2年前に来たときには、藪に阻まれて時間切れとなり、足下にできなかった頂上が、今日もすくくと大笠のむこうにとがっている。笈というのは、藪が濃いことに辟易した昔の里人がつけた名に違いない？今ではありがたいことに、藪を愛してやまない藪名人たるトマの諸先輩方のおかげで、ほんの少しは藪にも免疫ができたが、やはり不安はおさまならない。どうぞ雪が繋がっていますように。高度をあげてゆく朝日に祈りながら、大笠の平らな頂上に至る。今日2人目の単独行の方に挨拶して、いよいよ笈にむけて歩き出す。割れ目をよけながら雪の斜面をつなげていく。

雪の道をたどれないところは稜線沿いに藪漕ぎだが、藪の間にはうっすらと人の通った跡があり、獣道ほどに快適ではないものの十分に助けられて、予想に反して思いのほかあっさり藪を抜けきった。覚悟が悲壮であったために拍子抜けしたが、心からお日様と藪の神様に感謝した。

最後の詰めは、稜線沿いは厳しく、向かって右手の西斜面をジグザグにあがる。笹藪とその上に残ったわずかな雪の斜面とを交互に踏みしめるのはあまり気持ちよくない。スピードのでない足腰を鞭打って無心に歩を進める。今日は昨日や明日に較べればまだしも楽な行程だと思っていたが、それでも繰り返す UpDown に、なまった体はついていかない。足の速い田村さんや棚橋さんには登りの要所要所で待っていただき申し訳なかった。ありがとうございます。



なごやかに談笑する声が聞こえてきて、最後の笹藪を掻き分けるとずっと視界が開けた。8畳ほどの草地に6-7人くらいの50~60代のパーティーがくつろいでいた。笈の天辺だった。向こう側はもう藪とは無縁の雪道の世界だ。スーパー林道から冬瓜山を経て日帰り往復する人々のトレースが、土色の線を延々とつないでいた。なん

だか突然にぎやかになって拍子抜けするが、人のいない静けさを望みながらも、今日の核心をこえた嬉しさで、知らない人にも愛想がよくなる。

休憩していても汗がしたたりおちてきて、飲むそばから水分が蒸発してくようだ。今日は照り返しもきつく暑さでくらくらする。佐貫さんと棚橋さんのご馳走してくれるカキ氷がのどに凍みておいしい。カルピスが世界で一番おいしいと思える瞬間だ。



随分ゆっくりしたあと、今日の長い行程の後半に足を踏み出す。美しい稜線はゆるゆると高度を下げ、右手にトレースを分けると再び静かになった。仙人窟手前には悪いところもあり、残置スリングを伝って5mほど降りたりした。何やら幽玄な雰囲気のある仙人窟を抜けると再びストーンと高度を下げ、立派なスラブを横目に、国見山で直角に東へ転進する。これを斜めにショートカットしながら、瓢箪（ふくべ）山というなにやら由来のありそうなのんびりした針葉樹の森を抜けると足下に銀色の道が見えてくる。スーパー林道に貫かれたトンネルがこの真下を通っているはずだ。展望台があるのは、下から上がる道でもあるのだろうか。

小休憩の後『今日の行程における最後の登り』に差し掛かる。三方岩岳の山容もごく至近に見えてきた。名前に違わず屏風を重ねたような奇異な景観は、御伽草子にでもでてきそう。近くでみると案外に短い、ルートなどあるのだろうか。さっき国見山手前でみた広大なスラブといい、今日は立派な岩が多い。地図には名も見当たらなかったが、記録をきいたことがないのは、やはりボロボロなのだろうか。そんなことをつらつら考えるうち、いつのまにか山頂部に達していた。

ごうごうと風の音に混じって、何やら水の流れる音が聞こえてくる。踏みしめる雪の下を雪解け水が走っているようだ。あればいいなと思っていた雪の割れ目が本当に突如目の前に現われて、皆ザックを放り出して喜びいっぱい流れに駆け寄る。わずかな挿し水を除いてほとんど空に近くなっていた水筒に冷たい雪解け水をたっぷり補給するとこくこく飲んだ。これで今日は水作りも必要なくなった。ちょうど歩きはじめて11時間ほど経過しており、疲れもでてきた頃合でもあり、水作りが必要なくなったそれだけのことで随分得した気分になる。

風のきつい山頂部をこえ、鞍部の穏やかな地形の合間にテント適地があった。針葉樹に囲まれた居心地のよい一等地だ。さっさとテントを設営すると、重しのビールが次々と開けられた。今日はピッチが早い。夜は山岳カレーと各種おつまみをいただいて早々に眠りについた。(山川)

5/5(土)晴

目を覚まして、すぐに天気を確認すると、今のところ天気は悪くない。何とか白山まで目指す可能性を残すためには、10時半までに間名古の頭に到達しなければならないので、4:25 薄暗い中、出発する。皆、何とか白山までという気持ちが強いためか追い立てられるように歩き、5:50 馬狩荘司山に到着する。6時直前にラジオで

天気予報をチェックすると、どうやら今日一日は良い天気のまま過ごせることが確認できた。

野谷荘司山も過ぎ、北縦走路を南下。重荷にも慣れ、ペースも上がる。遙か彼方に見えていた白山にも、ようやく手の届く所まで近づいてきた。しかし遠くの山には薄っすら層雲がかかり出し、ゆっくり天候が悪化しているのが感じられる。もうせん平の先でぐっと高度を落とし、その後軽く登り下りすると妙法山手前のコルに着く。上手く巻くルートも見当たらないので小休止の後、妙法山を目指し、30分ほ



どでその山頂に着いた。出発してからここまでに、3時間強を要した。そして目安としている10時半まで3時間弱しかない。ここにて前倒しして今後の行動について、作戦会議を行う。様々な意見が出されたが、結局白山は断念して、中宮道から中宮温泉に降りることにした。当初の大風呂敷通りにはいかず残念ではあった

が、明日の天候や予想される白山周辺の状況等を熟考すると、突っ込むにはリスクが大きいのでやむを得ない。

そうと決まれば、雨に降られる前に中宮温泉まで降りてしまいたい。まずは念仏尾根を、夏道が所々出ているのを拾いながらシンノ谷まで下って渡り、ゴマ平ヒュッテを目指し急な斜面を登り返す。登りきった所で小休止がてら小屋の位置を確認する。振り返ると朝出発した三方岩岳が、特異な姿を見せている。ゴマ平ヒュッテは、ゆうに20人は収容できそうな立派な小屋だった。ここから先も、なるべく夏道を拾いながら進む。

しなのき平ヒュッテには、右側をトラバース気味にルートを取る。こちらはこじんまりとした小屋で、やはり人の気配は無かった。ここで泊まりたいかとのリーダーの問い掛けがあったが、明日の天候を考えるとやはり今日中に下山した方が良からうということになった。

標高が下がるまでは黙々と歩いたが、山の恵みの気配を感じ始めると皆それぞれ、思い思いの方向に目を凝らし、中宮温泉に辿り着く頃にはお土産もそこそこ得ることができた。

泉質の良い中宮温泉で汗を流し、タクシーにて金沢駅へと向かう。金沢の居酒屋にて打ち上げを行った後、急行能登に乗り込む。目を覚ます頃には、東京に着いているだろう。(棚橋)



[山行を終えてのコメント]

○これまで他会による沢や雪稜の記録を見ても、今ひとつ白山という山域のイメージが具体的に湧いてこなかった。しかし豪雪地域の山が好きな自分としては、主に積雪期の目標としてとても気になる存在であった。

今回、二年続きの大雪の後の寡雪とあって、GWに雪の山ということで行き先を考える段階で必然的に白山が浮かんできた。幸運だったのは、田村さんと早々に計画を決められたこと。やはり山行は、その山に深い思いを抱く人と同行してこそ一層充実する。

白山の山並みは、たおやかな稜線が陰谷を従え、時にトンガリピークを持つという点で、かつて縦走した蒜場尾根を彷彿とさせるものだった。白山本峰には届かなかったが、長大な稜線とその周りの風景、興味深い山名の数々は思っていたよりもはるかに興味深い地域だと感じた。今回は「入門編」のさらに第一歩といった感じだが、これを機に五体投地のラッセルを強いられる冬の白山へのステップを刻んでいければと思う。

最終日は脱水症状でパーティーの足を引っ張ってしまったが、精進してまた白山の稜線をたどることができれば嬉しい。皆さんありがとうございました。(佐貫)

○白山は前々から季節を問わず、気になる存在であった。しかし幾分遠く、なかなか足を伸ばせなかった。今回の山行で概念も掴めたので、これからは雪の多い季節や沢にも目を向けてみたい。(棚橋)

○この山旅で楽しかったのは、リーダーの田村さんの白山への長年の愛着がよく伝わってきて、こちらまでわくわくしてきたことだ。越後組のお二人も、同じ越の字の冠されたこの地の山に親近感を覚えるようで、親戚の家に遊びに来たように、自然と白山の中に溶け込んでいた。白山びいきの私としては居心地のよいことこの上ない。このひたすらなまった体が悔しく残念だったが、久々の白山を心底楽しんだ。(山川)

○私にとっては、かれこれ7年もの間、行きたいと思っていた計画でした。今回のメンバーで行くことができ、待った甲斐があったとつくづく思っています。次から次へと現れる個性的な山々を越え、目指す山に近づいていく・・・完走こそなりませんでしたが、非常に充実しました。東京から遠いせいかトマでは敬遠されがちですが、実は東北や越後に劣らぬ自然の豊かさや山深さを兼ね備えている、とっても魅力的な山域だと思います。今後も時々、白山シリーズを続けてみたいと思っていますので、ぜひ皆さんお付き合い下さい。(田村)

【行程】 5/3 西赤尾(7:15)～ブナオ峠(10:10)～大門山(12:30)～奈良岳直下(15:40) C1

5/4 C1(4:40)～大笠山(6:40)～笈ヶ岳(9:40)～仙人窟岳(12:00)～三方岩ヶ岳(16:10) C2

5/5 C2(4:30)～妙法山(8:00)～ゴマ平避難小屋(10:55)～中宮温泉(16:15)

【地図】 1/25000 西赤尾、中宮温泉、新岩間温泉

白山 北方横線 概念図(山川作成)

平成19年 5月3日～5日

メンバー: 田村L, 佐貫SL, 棚橋, 山川

- 踏破ルート
- 予足ルート
- - - イスカーブルート1～7
- 既存ルート

